

急激に変化する社会の中で求められるものは何か

KJC GROUP 株式会社 代表取締役会長 住谷栄之資 氏

仕事の原点

藤田観光に入社し、旅館、ホテル、温泉で、あらゆる仕事を体験した。それらの仕事の体験が、仕事の原点になっている。

また、株式会社WD I の創業メンバーになり、いろいろなレストラン事業を中心に立ち上げた。立ち上げたレストランの例は、ケンタッキーフライドチキン、TONY ROMA'S、Hard Rock Cafe、Spago、カプリチョーザなどである。

外食産業は大変厳しい業界である。食事をする事は、人間が生存するために大変重要な行為だと思っており、食事の場所として、外食は、人間の活力、生きていく上でも大事なことでと考える。できるだけ早くコロナ禍が終息し、業界が元気になって欲しいと思っている。

キッズニアとの出会い

2000 年ころから、少子高齢化、景気の低迷、ニートなどの社会問題に対して危機感を抱いていた。2004 年にメキシコのキッズニアを子供が職業体験できる場所として紹介され、訪問した際に、世界中が抱えている社会課題の大きな課題の一つに向き合える場所として感銘を受けた。

日本での開業を決意し、2004 年 9 月には、現在の KJC GROUP 株式会社の前身を設立した。そして、2006 年 10 月に東京、2009 年 3 月に甲子園で開業した。

キッズニアのコンセプト、概要、特徴

キッズニアのコンセプトは、教育とエンターテイメントを合わせた造用語である「エデュテインメント」である。

キッズニアは、屋内型かつ全天候型の施設で、延べ床面積は 6,000 平米ある。その中にパビリオンの数が約 60 あり、9 時から 15 時までと 16 時から 21 時までの 2 部の入替制を取っている。スポンサー企業約 80 社が東京、甲子園にパビリオンを設け、約 100 種類の体験ができる。これまで、東京と甲子園合わせて、約 2,000 万人のお客さまに来場いただいている。(図表 1)

キッザニアの概要



- 延べ床面積 約6,000㎡
- パビリオン数 約60
- 収容人数 約1,500人
- 営業時間 二部制（入替制）
 - 第一部 9:00～15:00
 - 第二部 16:00～21:00



大型ショッピングセンター内での運営 屋内型かつ全天候型の施設

11 図表 1

キッザニアの特徴として、リアルな街並みを3分の2サイズにして、こども達に「聞いたことのあるような会社の名前のパビリオンもあって、本当にリアルな街に来たな」という感じを持ってもらうことがある。また、キッザニア独自の経済を形成し、働くと「キッズ」という独自の貨幣で収入を得ることができ、使うことも可能で、お金の流通を学ぶことができる。

日本を取り巻く環境

日本を取り巻く環境として気になる点は、まず、出生数の減少だ。その他には、企業の時価総額ランキングが2018年でベスト20に一社も入っていないこと、コンピュータ科学部門で世界大学ランキングに入る大学が少ないこともある。

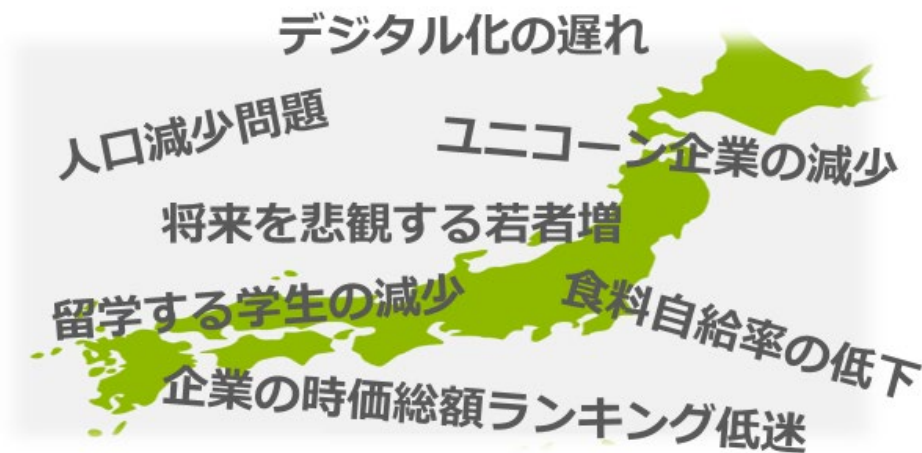
他には、拠出金額に見合った国連職員数を派遣していないことは、もったいないことだと考える。また、ボーイスカウトの人口が20年前の1/3になり、自然の体験やボランティア活動といった、いろんな良い経験ができる子供の数が減少している。

日本の若者を取り巻く課題と対応

世界の深刻な課題には、新型コロナウイルス、自国主義、地域間格差、あるいは地球温暖化、紛争・難民問題、社会貢献の格差、資本主義・民主主義の限界というように、基本的なものがたくさんあげられる。

また、特筆すべき日本の課題として、デジタル化の遅れ、ユニコーン企業の減少がある。将来を悲観する若者が増えていることも気になるし、外食産業の出身者として、食料自給率が40%を切っているため、正面から取り組まなければならない問題だと考えている。(図表

2)



図表 2

新しい時代に向かって

新しい時代に向かうための課題として、到来した多様化する真のグローバル時代に対応する必要がある。今までは一様化という一つの価値観があり、あるいは先が見えていて、企業や個人に先が見えていた。それが多様化することによって、価値観も大きく変わっている。個人的には、一朝一夕にはできないが、地域ごとのそれなりの文化と、それなりの国民で成り立っているものを大事にする、お互いの違いを認め合いながら、共同していくという考え方のほうが良いと思う。

対 応

- ・ 若者のスタートアップ支援
- ・ 非認知能力の開発推進
- ・ リベラルアーツの重要性
- ・ 真の社交性を追求
- ・ 時代が求める人財教育（学問と仕事）
- ・ 社会の新陳代謝

31 図表 3

DXの時代となり、それが、スピードアップする社会である。変化が非常に速く、今までのスピードでは追い付かないという感じがする。他にも、地球温暖化への対応、格差社会にどう向き合うか、EV、ロボット、ドローンなどの新技術開発、といった課題がある。

こうした課題への対応は、図表3のように考えている。まず、「若者のスタートアップの支援」が重要だと考えており、キッズニアでも少しは貢献したいと考えている。

他には、本人が認識していないいいところを伸ばす「非認知能力の開発推進」、若者を中心に話題となっている「リベラルアーツの重要性」も重要である。

コロナウイルス終息後のことも考えて、日本人が他の民族と比べて得意ではない「真の社交性を追求」することも重要である。教育が本当に社会に出て役に立つためのものでなければいけないと思っており、「時代が求める人材教育」が必要だと考える。学問が大事なのは言うまでもないが、社会でどう生きていくかを少しでも体験し、あわせて人間力というものを学んで、社会に出ていくというふうにしていけば良いのではないかと。

また、人間、有限の命なので、どう「社会の新陳代謝」をしていくかということが、これから大事だと感じる。

求められる人間像

若い人を採用する時に、経団連などで、どんな人材が必要かときいた場合には、Passion、熱い想い、理念、そういったものを持っている人が欲しいということである。そして、Collaboration、Creativity、Critical Thinking、Communication、この4Cはスキルとしては必要である。他にも大事な要素はたくさんあるが、あえて付け加えると、ホスピタリティビジネス、これが人間の社会として大事だと思う。(図表4)

今後、求められる人間力



34

図表 4

夢があって素晴らしいと思う若い方に、直接お会いしたいと思っている。若い層の人たちに、いろんなことを考えている人がいるが、それを応援しようという姿勢が、あまり見えない。そういう夢を応援することを、大人はアピールすべきと思う。簡単ではないが、私もできる限り、キザニアを通じて、あるいは個人でやっていければと考えている。